ゴールドラット博士の TOC(31)
(中国語でのチェンジ・ザ・ルールの再読)

TOC 会計と伝統的会計

5 月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2025 年 5 月 21 日(水)

ゴールドラット博士によって提唱された制約理論(TOC)は、ビジネスの効率性と収益性を、**アウトプットを制限する要素である制約を特定し、対処する**ことで経営を向上させる**経営哲学**である。

「(制約)ボトルネック」を体系的に特定し、これらの制約を緩和するための一連の意思決定プロセスを実行することが、**企業のパフォーマンスを最適化できる**と提唱している。

このアプローチは、制約を特定、活用、従属させ、解消すること、このプロセスを繰り返すという **5 つのフォーカスのステップ**を含む継続的な改善サイクルに基づいている。

これを進める TOC の重要な要素の一つが**スループット会計**であり、これは単に在庫レベルとコストに焦点をあてる従来の会計とは異なり、**制約の財務的影響に重点**を置いている。これにより、企業は過剰な在庫とムダな支出を最小限に抑えながら、収益の創出を最大化できるとする。

一般に公正妥当と認められた会計原則(GAAP)などの伝統的な会計基準は、**財務報告のための標準化されたフレームワークを提供**する。1929 年の金融危機後に、財務報告の誠実性、透明性、正確性などを確立するために導入されたのが GAAP である。

GAAP の目的は、財務報告の一貫性と完全性を確保し、複数の企業間での業績を比較するための基礎の確立であった。これにより、投資家や顧客は競合他社と正確に比較し、組織の業績を評価することが出来ることとなった。

これに対し、**スループット会計**では、**利益の最大化と制約の最適化を目的**とするため、**会計の目的がシンプルで明確**になる。

在庫をキャッシュフローを圧迫する損失的として扱い、**業務費**の最小化を図るなど、**制約資源の最適活用観点**から扱われる。

しかし、本質的な公式**「利益＝スループットー業務費」**にもみられるように、**売上が上がっても**制約を超えていなければ意味がないし、**コストを削減しても**、スループットが下がれば逆効果となる。

利益を生み出す目標とパフォーマンスを制限する制約の重要な役割を明示し、その改善に向けたリソースの配分を効果的に導くことが重要である。